

日本国際看護学会第5回学術集会の開催にあたって

日本国際看護学会第5回学術集会会長
近藤 暁子（東京医科歯科大学大学院）

新涼の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

COVID-19 の国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態を勘案いたしまして、日本国際看護学会第5回学術集会は昨年引き続き、Web 開催となりました。今年はハイブリッド形式または対面での開催も検討しましたが、変異ウイルスの流行もあり、参加者の方々の安全を考慮し Web のみで実施いたします。

COVID-19 の影響により、皆様方の海外での活動はもとより日々の生活・研究・教育・業務に多大な変化をもたらし、さらにこの状況が続く中、新たな手段を模索・開発されていらっしゃるのではないかと思います。今回の COVID-19 の影響をマイナスにとらえるのではなく、新たな形式での活動へのシフト・発展する上での絶好の機会となればと期待しております。

そこで、第5回学術集会のテーマは「レジリエンス！with/after コロナにおける多文化共生」といたしました。このような非常事態の中で皆様が工夫を凝らしながら活動されている内容を共有して今後の国際看護学の発展につなげられると良いと考えています。

最後になりましたが、日本国際看護学会第5回学術集会の開催にあたり、多くの方々のご支援、ご協力を賜りました。ここに心より感謝申し上げます。

2021 年 9 月 4 日